

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2015\_022\_kani=true&JigyosyoCd=0172902132-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな場所にあり、夏は畑で収穫した野菜を、その日の献立にする等、家庭的な生活を過ごしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

名寄市近郊の自然の豊かな緑の丘に木のぬくもりを感じる2ユニット(定員:18名)平屋建てのグループホームで、敷地内に隣接して母体医療法人が運営する老人保健施設が併設されていて、利用者・家族が安心できる支援体制が整っている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果 (該当するものに○印), 項目, 取組の成果 (該当するものに○印). Rows 56-62.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの後に職員が「介護理念」「アネックス理念」を読み上げることで理念を共有し、日々の実践に繋げている。	事業所独自の理念をつくり見やすい場所に掲示して、朝礼時に唱和し、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の総会に出席し、事業所の特徴を説明し理解を得ている。	町内会に加入して、文化祭等のイベント参加や町内会と協力して高齢者徘徊捜査模擬訓練を共催するなど地元の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症があっても地域の中で生活していけるという事を理解していただく為にも近くのスーパーや公共施設等へ訪れている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やその家族にも参加して頂き、事業所の活動を報告し、その都度評価を受けている。また家族・町内会・行政からも意見を取り入れサービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議を定期的で開催して、利用状況や日常生活の様子、事業所の行事予定など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて事業所の日々の取り組みについて報告している。また役所からの入居の相談に随時対応している	市担当者とは、日常業務を通じて情報交換を行い、助言や指導を得ながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体はもちろん、施設内の拘束についても行わないよう努めて来ている。夜間は防犯の為に玄関の施錠はしているがそれ以外は施錠せず対応してきている。	身体拘束廃止委員会の設置や虐待防止等の研修会の開催で、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	心理的・身体的虐待が無いよう職員同士が注意を払い日々のケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を理解し、必要性がある時にはカンファレンスを開催し随時支援できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際は「契約書」「運営規定」「重要事項説明書」にて施設の概要・役割等を説明し十分に理解した上で入所して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に相談窓口を設置し、また外部にも相談機関を設置する事で意見・苦情を取り入れやすくしている。また意見があった場合は随時職員と共有し改善に努めている。	家族の満足度が高いことがアンケート結果から伺える。また、家族が抱える悩みや相談に応じたり、意見や要望など言い表す機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気付いた事があればいつでも意見を聞ける関係を築いているが、年に1回は全体の会議を開き意見交換を行い改善に努めている。	職員のチームワークが良く、サービスの質の向上に努めている。また、職員の意見や要望、提案を聞くよう機会を設け、運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎月の勤務表を作成、職員の勤務が偏らないよう公平を保っている。また各種研修に参加してもらうことで向上心を持ち、スキル向上へ努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は研修案内を職員が確認できる場所に掲示し、どの研修でも参加できる環境を提供している。また資格取得にも働きかけ、勤務の配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域の勉強会や講習会の案内を提示し参加を促している。勉強会出席後は報告会を開き今後のサービスの向上に取り組んでいる		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に施設内や居室を見学してもらい、事前に持ち物の確認や本人の希望や相談にのる事で、入所後も安心した生活を過ごして貰えるよう心掛けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や入所後も積極的に家族に声掛けすることで、信頼関係を築き、家族の要望等を聞き取りやすい環境づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時のニーズ、要望に応えられるよう、情報を集め、初期プランを作成し支援している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	待つことの大切さを認識しつつ、一人一人に合った対応をしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活の一部を写真に収め、来館時に見やすい場所に貼る等して、対話の機会を持っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで暮らしていた町内会への参加を継続していけるよう調整をしている	馴染みの店での買い物や散歩、運動会やアネックス祭り等の開催で家族と一緒に過ごせる機会を作るなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間にも相性があり、食卓の席を工夫したりすることで、利用者同士の関係が良くなるように配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族からの相談があれば対応できるよう努めている		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所後もその人がその人らしい生活が継続できるように、希望や意向を随時間き入れ対応出来るように努めている	一人ひとりの希望や意向、生活歴の把握に努め、食事の準備等の役割やカラオケやカルタなどの楽しみごとへの支援など本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所にあたり家族からこれまでの生活状況やサービス利用状況等について聞き取り、シートへ記入し共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤者が中心となり一日の過ごし方が有意義となるよう本人の状態や他入居者との関係などを把握するようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全ての入居者ではないが、可能な場合には本人や家族にも会議に参加してもらっている。必要に応じて地域の役員や医療機関等にも参加してもらえ、それが出来ると、より多様な意見がもらえる可能性がある	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の意見・要望、カンファレンス等を通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、支援経過表に排泄・生活状況等を記載して共有を図っている。ケアの実践結果の気づきや評価、それを受けての工夫については、カンファレンス内にて検討し今後のケアプランに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関や福祉施設と連携を図り、入居者の現在の状況にあったサービスが受けられるよう調整を図っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に多く参加できるよう、担当を設け情報収集し、希望により参加出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師が中心となり、本人・家族の希望を踏まえ、かかりつけ医と連絡調整を図り、その都度対応している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっていて、往診や看護師との連携、通院への支援で適切な医療を受けられるようにしている。また、母体が医療法人で家族等の信頼が厚いことが伺える。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活援助場面や処置での変化を見逃さないよう留意すると共に看護師にも確認してもらい、随時指示を受けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期の受診を行い、入院時には情報を提供している。入院中も状態を確認に行くなど、病院関係者とも関係づくりに努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を聞き、出来る限り意向に沿う様に努力している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し全職員が応急手当ができるようにしている。また救命救急講習も受講している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受け年2回(日中・夜間を想定)避難訓練を行っている。地域の方々にも協力してもらっている。	近隣住民が参加して年2回の避難訓練の実施や月2回の自主防災訓練や救急救命訓練を実施して緊急時に備えている。また、スプリンクラーや火災報知器、通報装置等の設備を完備し、定期点検も実施している。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った言葉掛けを行っているが状況によっては、適切でない言葉掛けもあると思われる。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように、個々に合わせた声掛けなど職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを聞ける様な声掛け、環境作りに気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	会話の中から利用者の思いを聞き、出来る限り希望に沿う様支援しているが、職員の都合で優先することもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に一緒に服を選んでもらっている。2か月に1度訪問美容を行ったり馴染みの床屋へ外出支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から食事まで入居者と一緒に行い、家で食べるのと同じような環境になるよう心掛けている	一人ひとりの力を活かしながら、職員と一緒になって食事の準備や味付け、配膳や後片付け、食器洗い等の役割ごとを分担している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一回に出す量を気にしたり、水分はいつでも摂れるよう心掛けている。水分摂取の少ない入居者には声掛けや介助を行い脱水予防に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、見守り、介助を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握することで、時間誘導を行い失禁を予防している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けて見守りや声掛け、誘導等の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや果物、野菜ジュース等を出したり、腹部マッサージを行い便秘の予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	2~3日置きになっているが「入りたい」時に入れるよう心掛けている。希望者と温泉に入る事をプランに取り入れている入居者もいる	時には、ひなた温泉やサンピラー温泉、近くの銭湯に出かけるなど入浴の支援をしている。また、週2~3を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・入床時間は本人に合わせている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を飲む時は見守り声掛けを行っている。気づきがあれば必ず記録に書いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が出来る事を声掛けし「いいよ」と言ってくれた時は手伝ってもらっている。夏は菜園作り冬は雪はね等。楽しみではカラオケ、百人一首、カルタ、ビデオ観賞等。食事では調理、配膳等。掃除ではモップ掛け、手すり拭き等		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、床屋等送迎している。行事では桜見学、動物園、夏祭り、紅葉ドライブ、敬老会等なるべく全員参加出来るように支援している。	旭山動物園や紅葉見物、昼食の弁当持参で桜等の花見やサンピラーパークに出かけたり、地域の夏祭りや敬老会参加、買い物や散歩など外出する機会が多い。	今後は、さらに利用者が個々の行きたいところへ外出することができるよう職員間で検討しているので、その実践に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行きたい場合は、職員同行で購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本自由に電話はかけられるようにしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファー、テレビ、ゲーム、本等があり、自由に楽しく過ごしてもらえるようになっている。	平屋建ての贅沢な造りで、天窗からは採光が採り入れられて明るく、行事参加の写真や季節毎の手作りの写真が飾られるなど生活感や季節感を採り入れて、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の自由に過ごしてもらっていい。廊下にソファーがあり、気軽に座れるようになっている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用していたベッド、ソファー、棚、家族写真を置く等して安心出来るようにしている	明るく、清潔感が漂う居室は広く、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれたり、手作りの作品や家族の写真が飾られるなど本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内には手すりがあり、居間、食堂には時計、カレンダーがあり、月日、時間がわかるようになっている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902132		
法人名	医療法人 臨生会		
事業所名	グループホームそよかぜ館アネックス B棟		
所在地	名寄市字緑丘11番地23		
自己評価作成日	平成27年12月25日	評価結果市町村受理日	平成28年2月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0172902132-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902132-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成28年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな場所にあり、夏は畑で収穫した野菜を、その日の献立にする等、家庭的な生活を過ごしております。平屋一戸建ての為、各ユニットの入居者・職員が常に交流ができ、職員と入居者が馴染みの関係を築いております。季節を感じてもらうために、毎月楽しい行事を企画し喜んで頂いております。同一法人に病院、歯科、老健、ケアハウス、居宅介護支援事業者があり、常日頃から連携をとることで、その人がその人らしい生活を過ごせるよう、法人が一体となって支援できる体制をとっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの後に職員が「介護理念」「アネックス理念」を読み上げることで理念を共有し、日々の実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の総会に出席し、事業所の特徴を説明し理解を得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症があっても地域の中で生活していけるという事を理解していただく為にも近くのスーパーや公共施設等へ訪れている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やその家族にも参加して頂き、事業所の活動を報告し、その都度評価を受けている。また家族・町内会・行政からも意見を取り入れサービスの向上に取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて事業所の日々の取り組みについて報告している。また役所からの入居の相談に随時対応している		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体はもちろん、施設内の拘束についても行わないよう努めて来ている。夜間は防犯の為に玄関の施錠はしているがそれ以外は施錠せず対応してきている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	心理的・身体的虐待が無いよう職員同士が注意を払い日々のケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を理解し、必要性がある時にはカンファレンスを開催し随時支援できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際は「契約書」「運営規定」「重要事項説明書」にて施設の概要・役割等を説明し十分に理解した上で入所して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に相談窓口を設置し、また外部にも相談機関を設置する事で意見・苦情を取り入れやすくしている。また意見があった場合は随時職員と共有し改善に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気付いた事があればいつでも意見を聞ける関係を築いているが、年に1回は全体の会議を開き意見交換を行い改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎月の勤務表を作成、職員の勤務が偏らないよう公平を保っている。また各種研修に参加してもらうことで向上心を持ち、スキル向上へ努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は研修案内を職員が確認できる場所に掲示し、どの研修でも参加できる環境を提供している。また資格取得にも働きかけ、勤務の配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域の勉強会や講習会の案内を提示し参加を促している。勉強会出席後は報告会を開き今後のサービスの向上に取り組んでいる		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で、不安や困っている事を見極め対応し、要望等が聞けた時は検討・対応し安心できるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初に家族から要望を聞く等して、本人の日々の生活に活かし、また生活の様子を伝え安心して頂き信頼関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後は施設以外のサービスは利用していないが、家族より自宅での様子を聞き、また本人の日々の生活の中から「何が必要か」をカンファレンスで話し合い対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の準備をしたり、世間話をしたり、活動に参加するなど共に楽しく安心した生活ができるような関係作りに努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際、自室でゆっくり家族の時間が持て、お正月、お盆や必要時に応じて外出・外泊出来るよう支援している。また生活の様子を伝え、要望等を聞き共に支えあえる環境作りに努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた地域の老人会の会合やボランティア活動の際には声を掛けて頂き関係が途切れないように努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間にテレビとソファを置き、そこで利用者同士、テレビを見たり話をして過ごし、楽しく安心感が持てるよう環境作りに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談があれば対応するよう努めている		
<b>III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に希望を聞き、カンファレンスを行い、出来る限り意向にそえるよう行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には家族・本人から生活歴を聞き取り、入所後も継続した支援が出来るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の経過観察表に日々の生活状況を記載することで現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月～6か月の間でカンファレンスを開き、評価・話し合いをし現状にあったサービス計画を作成している。必要時は本人・家族にも同席してもらっている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人の記録用紙に記入し、変化や気づきがあった時は「伝えたいこと」に記載し、1週間申し送る事で職員全員が情報の共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出・外泊、職員との買い物等希望に沿うよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている行事や催し物を把握し、入居者の好みにあった行事に参加することで楽しみある生活を提供している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にし、かかりつけの病院や歯科医院へ受診できるように支援している		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、細かい情報交換・報告・相談を行い、利用者が適切な受診や看護を受けられる様に支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には「介護連絡書」を添付し、更に病院関係者(担当看護師)に直接口頭で経過を伝え、細かい情報交換を行っている。入院中でも情報交換を行い退院の予定を組んでいる		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、施設で対応できるサービスについて家族と話し合っている。出来る限りグループホームでの生活が継続出来る様に、地域の関係者と共に支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し職員間で共有し、急変時や感染予防・処置の講習を行い、実践力を身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として月2回自主避難訓練を行っている。また年2回、消防や近隣住民と一緒に避難訓練を行い、夜間想定訓練も行っている		

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には丁寧な言葉かけを意識しているが、忙しい時や大変な時に口調が悪くなる時もあった		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちら側で決めるのではなく、まず本人の希望を聞くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者のペースに合わせるよう努めているが、職員の都合を優先してしまう時もあった		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口紅やブラシを手渡して声掛けをしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや食材切り、味付け等、出来る事を行ってもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は食べられる時に食べてもらい、食べれない時は時間をずらしたり、ゼリー等の食べやすい物を食べてもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けを行ったり、歯間ブラシを使い介助したり、舌を磨いたりと、その人に合わせたケアをしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間で声掛けしたり、動きが多くなっている時に声掛けをしている。車椅子の場合は戸を開けたり、流す音が聞こえたら中に入り上げ下げの介助を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の足りない人には色々な物で取ってもらったり、ヨーグルトやきな粉を混ぜ食べてもらったりしている。また何日も出なければ指便し、降りていれば摘便する。その時によって下剤を使用する		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	その人に合った温度に合わせる。着替えと一緒に用意し、話しながら行う。入居者のその日の状況により午前・午後に入ってもらっている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足が冷たい時など湯たんぽを入れたり、まだ眠れていない時声掛けをしたり、咳を頻回にしている時など寒くないか聞いたり様子を見に行ったりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一錠づつ手渡し、口の中に入っているのを飲み込んだ事を確認し、次に与薬している。またその人によって開けずに渡して飲んでもらう		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除、シーツ交換等一緒に行ったり、台所の仕事など一人ひとりに合わせ行っている。(漬け物作り、食材の仕分け、食材切り、茶碗拭き、お茶入れ)。合い間合い間に好きな物の水分補給、おやつを提供している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望がある時、買い物、食事等出掛けられる機会を持っている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が買い物の希望がある場合は、職員が同行し欲しい物を購入し、能力に合わせてレジの支払いも出来る人は自分で行ってもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話をかけられる様な環境にしている。また手紙や年賀状等を書き家族に出している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ、テレビ、ビデオ等あり、自由に楽しめる様に配慮している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、玄関等に椅子やソファを置き、気軽に過ごしてもらっている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ、テーブル、ベッド、テレビ等を持参してもらい、家族の写真など飾ったりして、安心感が持てるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間や食堂には時間がわかるよう、時計を設置。毎月の行事のお知らせもホワイトボードにて分る工夫をしている		

## 目標達成計画

事業所名 グループホームそよかぜ館アネックス作成日: 平成 28年 2月 4日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	12	職員の人数が減ったことで、生き活きと働けている職員が少ない。	職場の環境を整え、職員が希望通り勤務できることで、施設運営の改善を図る	職員の補充、退職者の減少を目標として、運営代表者と意見交換を行っていく。管理者は職員の意見を聞く機会を持ち、日々改善し職場の環境整備に努める。	12か月
2	49	行事として施設全体で外出する機会はあるが、入居者の好みの場所に外出している事が少ない。	入居者が個々の行きたいところへ外出することができる。	入居者の好みの場所を把握しておき、利用者の希望や訴えがあった時は、可能な限り外出支援を行っていく。	12か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。